

キャラクター名
白羽 加賀

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ノイマン		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	会社役員
	オプショナル		年齢	20代前半	性別	男
覚醒	命令	衝動	自傷	初期侵食率	36 %	
出自	権力者の血統		経験	敵性組織	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	4	1	0			5	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
フォールンブレイド	白兵	5r+3	3	9		命中判定の直前に使用する。その判定の値を1下調整する。この効果を使用した場合はこの武器はメインハンドでのみ使用可能。
日本刀	白兵	5r+2	3	5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	
ウェポンケース	
日本刀	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
秘密兵器	P	N		
"FHエージェント"	P 幸福感	N 不安		
摩耶勅	P 尽力	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:ノイマン	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-Lv(下限値7)							
コントロールソート	1	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果:	このエフェクトを組み合わせた判定は【精神】で判定を行える。							
コンバットシステム	3	3	Xジャー/リアクション	-	-	対決	-	
効果:	このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを+[Lv+1]個する。							
マルチウェポン	1	3	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果:	同じ技能で扱う武器の攻撃力と効果をふたつ合計して使用できる。組み合わせた判定の達成値を-[5-Lv]する。							
援護の風	5	2	オート	視界	単体	自動成功	-	
効果:	その判定のダイスを+Lv個する。1R1回。							
ウィンドブレス	2	2	オート	視界	単体	自動成功	リミット	
効果:	前提条件:《援護の風》 《援護の風》を使用した判定の達成値を+[Lv*3]する。							
限界突破	1	3	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果:	1Rに1回まで使用できるエフェクトを一つ1Rに2回まで使用できるようになる。1シナリオLv回。							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

しらはーかが

一人称:俺
二人称:君、～さん

二刀流の刀士。
片方は戦闘の度に破壊され、二度同じ刀として振るう事はないがそれ自体の性能に変化はないだろう。
何の因果か巡り戻ってくるのだ。

最もそれで叩き切ったものの数は少なく無いだろう。
FHのセルに居た頃の記憶は曖昧であった。誰かの傍に居て、誰かの為に戦闘をするのが当たり前だった。
人を殺す事に躊躇いは無かっただろう。そう命じられて、そうすれば褒められたから。
それが間違っていると叩き込まれた。彼自身はジャームではなかった。
日本支部で正しい力の使い方を私は学んだ。学ばされたとも言えるが、それでも只彼がUGNのエージェントとして戦う事は難しかった。
元から正しい形に創り上げられなかった正しい価値観は決して選べなかっただろう。

家族、主に父の影響は強かっただろう。
その父に選ばれたと、会社の為とそれを行っていたのだ。
FHセルとの繋がりがあったのは父だった。上手く使われていたのかもしれないが、それでも尚"命令"通りに従うのだ。
それが正しい価値だと思っていたから。

相棒の事は誰よりも戦闘において信用している。